

「しんぶん赤旗」の河
 臣哲也校閲部長が著した
 『赤旗』は、言葉をどう
 練り上げているか』が評
 判です。毎日の紙面づく
 りの中での「言葉」との
 格闘の産物。「日常の会
 話もよく考えて発言する
 よう心がけるようになり
 ました」と読者から感想
 が寄せられ、毎日新聞の
 校閲部のブログでは、
 「校正・校閲の関連お薦
 め本」の一番に取り上げ
 られました。「ほとんどが

わかりやすく 親しみやすく

私たちの普段の作業で問
 題になる言葉と驚くほど
 一致しています」、しか
 し、自分たちの用例にな
 い言葉もある、と。
 たとえば、貯金は「切り
 崩す」か「取り崩す」か。
 「ためたものを、次第に
 取ってなくすこと」の意
 味の「取り崩す」が正解
 ですが、「毎日」ブログ子
 は、世間では「切り崩す」
 が「かなり流布してい

る」ので、「やはりおか
 しい」と、意を強くしま
 した。そして、「貯金
 を取り崩す」のは困りま
 すが、大企業の内部留保
 は大いに取り崩して社会
 に還元してほしいもので
 す」という本のオチを引
 いて、「さりげなく」赤旗
 らしさ」を表している
 といえなくもありません。
 この本は、「赤旗」の
 「です・ます」の文体の

由来も紹介しています。
 最初は1962年5月
 1日付「主張」から。65年
 の元日付からスポーツ面
 を除いて、原則「です・
 ます」に移行しました。
 「アカハタの文章が堅
 い」という読者の声にこ
 たえて、「わかりやすく、
 親しみやすく」するため
 に採用したものでした。
 「分かりやすく、親し
 みやすく」は「赤旗」創
 刊以来の努力目標です。
 戦前の「赤旗」にも、「内
 容がよくのみ込めてこ
 そ、「赤旗」に対する労働
 者の親しみ、信頼、権威
 が得られるのだと思ふ」
 の声、和訳抜きの外來語
 は使うべからずの苦情な
 ど、読者の声が掲載され
 ています。



『月刊学習』で好評連載中の
 「言葉の現場から」が本に

由来も紹介しています。
 最初は1962年5月
 1日付「主張」から。65年
 の元日付からスポーツ面
 を除いて、原則「です・
 ます」に移行しました。
 「アカハタの文章が堅
 い」という読者の声にこ
 たえて、「わかりやすく、
 親しみやすく」するため
 に採用したものでした。
 「分かりやすく、親し
 みやすく」は「赤旗」創
 刊以来の努力目標です。
 戦前の「赤旗」にも、「内
 容がよくのみ込めてこ
 そ、「赤旗」に対する労働
 者の親しみ、信頼、権威
 が得られるのだと思ふ」
 の声、和訳抜きの外來語
 は使うべからずの苦情な
 ど、読者の声が掲載され
 ています。